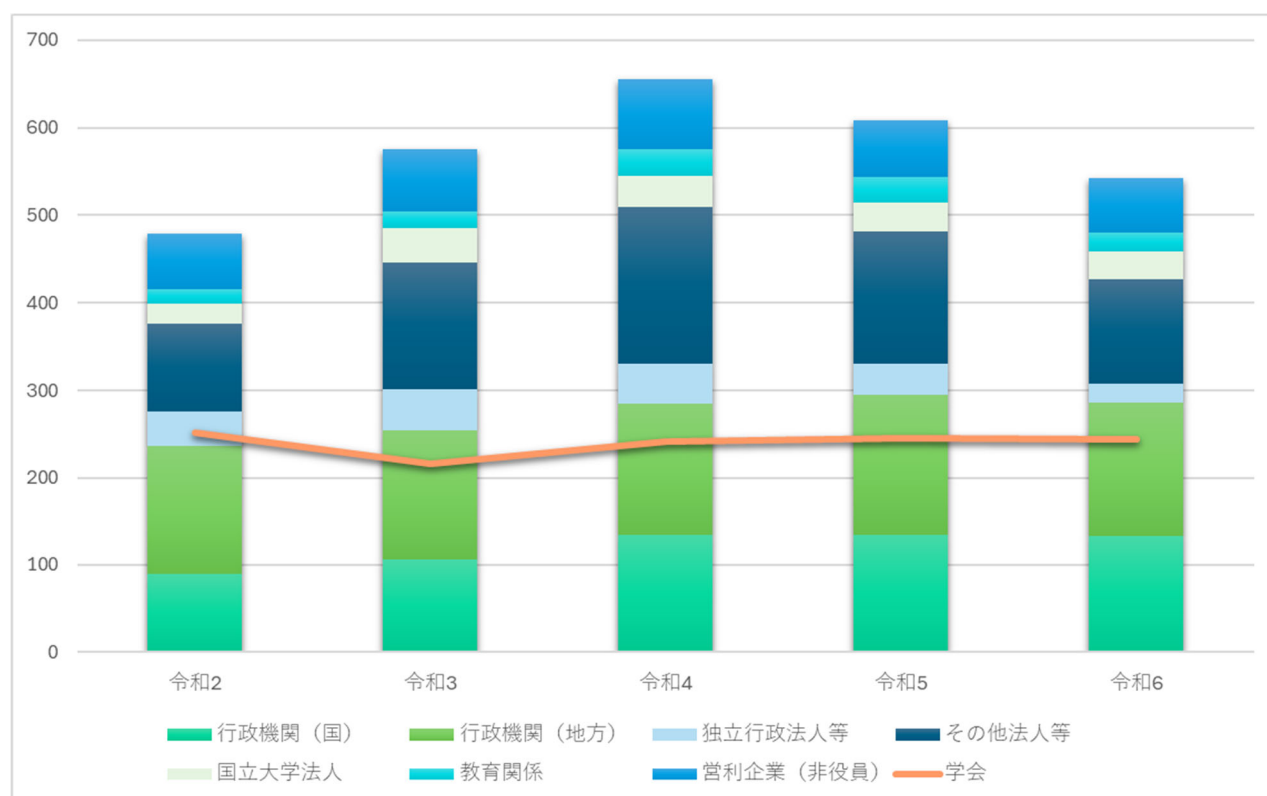


6. 社会との連携

6.1 他機関への貢献

兼業システムの登録情報と教員からの届出（無報酬学会兼業）を基に、兼業区分ごと・年度別に集計した延べ人数は次のとおりである。

年度	行政機関 （国）	行政機関 （地方）	独立行政 法人等	その他 法人等	国立大学 法人	教育	営利企業 （非役員）	学会
令和 2	89	147	40	100	23	16	64	252
令和 3	106	148	47	145	39	19	71	216
令和 4	135	150	46	178	36	30	80	241
令和 5	135	160	35	151	33	30	64	245
令和 6	134	152	22	119	32	21	62	244



6.2 研究発表講演会・公開講座

6.2.1 研究発表講演会

◆令和 6 (2024) 年度

日時：2025 年 2 月 20 日（木）・21 日（金）9 時 00 分～16 時 30 分

会場：京都大学宇治キャンパス宇治おうばくプラザきはだホール他（プレナリーは YouTube ライブ配信も実施）

- ・ 特別講演 3 件： 澁谷拓郎「地震波で地球内部を覗く（西南日本編）」, Ana Maria Cruz “From Risk Management to Risk Governance: A Paradigm Shift for Natech Risk Reduction”, 中北英一「レーダーで見る降水系に魅せられて」
- ・ 災害調査報告 1 件： 松四雄騎「能登半島における地震・豪雨の連鎖による斜面変動の特徴と要因」
- ・ 技術支援報告 1 件： 達山康人 専門職（技術）「5 軸フライス盤を用いた切削加工について」
- ・ パラレルセッション： 口頭発表 154 件，ポスター発表 52 件（口頭発表 1 件取下）
- ・ 来場者 447 名（うち，名誉教授 12 名，発表者 206 名（教員・研究員を含む），技術職員 13 名，研究員 17 名，教員 124 名（※発表者 66 名含む），芳名帳記帳者 141 名（1 日目 91 名、2 日目 50 名））
- ・ プレナリーセッションライブ配信視聴数： 1 日目 153,114 2 日目 341,60（視聴回数，ユニーク視聴者数。Google の定義による）
- ・ 優秀発表賞： 計 14 名、口頭発表（8 名）田中穂乃香、宮副真夢、松尾佳星、河谷能幸、小川泰生、藤井天真、Yuxuan LUO、Changze LI、ポスター発表（6 名）桐森元規、福島実、近藤有史、矢野むつみ、西沢貴志、小山凱
- ・

令和
6
年度

 京都大学防災研究所

研究発表講演会



2025年 **2月20日** **木** **21日** **金**

会場 **京都大学宇治キャンパス** 一部ネット中継

20日 木	9:00 ~ 9:45 プレナリー (きはだホール/ネット中継)
	10:10 ~ 18:30 パラレルセッション
21日 金	9:00 ~ 13:00 パラレルセッション
	14:00 ~ 16:25 プレナリー (きはだホール/ネット中継)

後援：一般財団法人 防災研究協会

6.2.2 公開講座

◆令和 6 (2024) 年度

「京都で育む防災研究の新展開」

日 時： 2024 年 9 月 14 日 (土) 10:00~16:30

会 場： 京都大学宇治おうばくプラザきはだホール・Zoom (ハイブリッド開催)

受講料： 無料

来場者数： 会場 125 名 (定員 280 名 事前申込者 188 名 当日受付 9 名)

オンライン 318 名 (定員 300 名 事前申込者 496 名)

CPD 受講証明書発行： 会場 57 名, オンライン 78 名

概 要： 京都・宇治を拠点とする京都大学防災研究所は、半世紀以上にわたり、京都で育まれた防災に関わる「知」を日本そして世界へ発信してきました。今回は防災研究所の取り組みの中でも身近な話題、京都にまつわる防災の話を中心に紹介します。

講演内容：

- ・ 開会の挨拶 (所長 堀智晴)
- ・ 京都府南部で身近に発生する地震 (宮澤理稔)
- ・ 物理探査と AI で見る京都盆地の地下構造 (林宏一)
- ・ 土石流災害のリスクを知る (中谷加奈)
- ・ 底生動物から見た日本の河川の特徴と宇治川の特殊性 (小林草平)
- ・ 「自らの命は自らが守る」を問い直す (松田曜子)
- ・ 質疑 (司会 田中賢治, 講演者一同)
- ・ 閉会の挨拶 (副所長 矢守克也)

2024年度 第35回 京都大学防災研究所 公開講座

京都で育む 防災研究の新展開

2024年 **9月14日** **土** 10:00~16:30

ハイブリッド開催

宇治会場 京都大学宇治キャンパス きはだホール
〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄
JR黄檗駅から徒歩5分 京阪黄檗駅から徒歩6分

オンライン Zoomミーティング形式

受講料 無料(事前に受講申し込みが必要です)

定員 会場280名/オンライン300名(いずれも先着順)

対象 一般・実務者・大学生・高校生

問合せ先 京都大学防災研究所公開講座事務局
〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄
京都大学宇治地区事務部研究協力課拠点支援掛
メール▶kokai06@dpri.kyoto-u.ac.jp
イベントページ▶<https://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/news/21197/>



本講座は、土木学会認定
CPDプログラムです

受講申込みは
こちらから→



プログラム

9:30	開場
10:00~10:10	開会の挨拶 所長 堀 智晴
10:10~11:00	 京都府南部で身近に発生する地震 宮澤 理穂 地震防災研究部門 教授
11:00~11:50	 物理探査とAIで見る京都盆地の地下構造 林 宏一 斜面防災研究センター 教授
11:50~13:00	昼休み
13:00~13:50	 土石流災害のリスクを知る 中谷 加奈 気象・流域災害研究部門 教授
13:50~14:40	 底生動物から見た日本の河川の特徴と 宇治川の特異性 小林 草平 水資源環境研究センター 准教授
14:40~14:45	休憩
14:45~15:35	 「自らの命は自らが守る」を問い直す 松田 麗子 巨大災害研究センター 准教授
15:35~15:45	休憩
15:45~16:25	質疑(質問は会場受講者のみ) 講演者一同
16:25~16:30	閉会の挨拶 副所長 矢守 克也



京都大学防災研究所
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

2024年度 第35回 京都大学防災研究所 公開講座

京都で育む防災研究の新展開

京都・宇治を拠点とする京都大学防災研究所は、半世紀以上にわたり、京都で育まれた防災に関わる「知」を日本そして世界へと発信してきました。今回は防災研究所の取り組みの中でも身近な話題、京都にまつわる防災の話を中心に紹介いたします。



京都府南部で身近に発生する地震

宮澤 理稔

地震防災研究部門 教授

京都府南部では、時々有感地震に見舞われます。これらの地震がなぜ起こるのか、その科学的背景について説明します。また、この地域で行われている、最新技術を使った地震研究の取り組みについても紹介します。



物理探査とAIで見る京都盆地の地下構造

林 宏一

斜面・防災研究センター 教授

地面の下は、地震や大雨などの自然災害から身を守るため、また地下水など豊かな自然を守るために重要な情報です。非破壊で地面の下を見ることができる物理探査技術と、データサイエンスで明らかになった、京都盆地の地下構造を紹介します。



土石流災害のリスクを知る

中谷 加奈

気象・流域災害研究部門 教授

日本は国土の7割を山地が占めて、京都市内では観光地や京都大学の近くにも土石流災害警戒区域が多数存在します。土石流の挙動や砂防堰堤の効果を示す実験や、京都府内を対象とした土石流シミュレーションによる警戒区域の詳細な危険度分布について紹介します。



底生動物から見た日本の河川の特徴と宇治川の特殊性

小林 草平

水資源環境研究センター 准教授

日本の河川における生物多様性の高さ、山地土砂生産、砂州（河原）の発達、瀬淵構造による多様性の形成維持機構、底生動物の多さや生息種から見た宇治川の特殊さとその理由、日本の土砂環境と河川生態系の変遷を解説します。



「自らの命は自らが守る」を問い直す

松田 曜子

巨大災害研究センター 准教授

「自らの命は自らが守る」という言葉は、人々の防災意識を高める標語として用いられ、私たちも当たり前にそのことを受け止めています。しかし、私たちは本当に自分だけで自分のことを守れる存在でしょうか？そうではないという逆説的な立場からみた防災施策とはどのようなものか、考えてみましょう。

受講申込み 宇治会場&オンライン ハイブリッド開催

イベントページ (<https://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/news/21197/> 右下の受講申込み二次元コード) から受講登録をお願いします。(先着順) 申込みの際に受講形式(会場/オンライン)をご選択ください。

備考

- ・講義資料をイベントページに掲載します(9月初めを予定)。会場受講者の方は必要に応じてプリントアウトしてご持参ください。
- ・受講者へのご連絡事項(開催中止など)がある場合はイベントページに掲載します。
- ・本公開講座の過去の講演映像を「京都大学OCW」「京都大学防災研究所YouTubeチャンネル」からご覧になれます。

受講申込みはこちらから→



6.3 京大ウィークス

6.3.1 宇治キャンパス公開

期間：令和 6 年 10 月 19 日～20 日（宇治川オープンラボラトリーは 19 日のみ開催）
 テーマ：「宇治にきらめく科学のカケラあつめて開く知のトビラ」
 特別講演会：「地球温暖化で豪雨災害はどうか？そしてどうする？」中北 英一 教授
 防災研究所公開講演会：実施せず
 公開ラボ：7（宇治川オープンラボラトリー含む）
 参加者数：1,566（うち、宇治川 OL の参加者（事前予約）は 186 名）



公開ラボ

プログラム名	対象	会場
天気図を彩る	幼・小・中・高・一般	本館 E 棟 5 階 E509D 号室
来て・みて・感じて 水資源	幼・小・中・高・一般	本館 E 棟 1 階 E114N 号室
斜面災害研究の最先端： 地震時地すべり再現試験	小・中・高・一般	本館 E 棟 1 階 E107D 号室
飛ばせ気球！見つめろ地球！ —空を診察して豪雨の予測に役立てます—	幼・小・中・高・一般	中庭駐車場
遠心力载荷装置を用いた液状化地盤の公開実験	小・中・高・一般	遠心力载荷実験室
風を感じる	小・中・高・一般	境界層風洞実験室
災害を起こす自然現象を体験する	幼・小・中・高・一般	宇治川オープンラボラトリー

※幼：幼児 小：小学生 中：中学生 高：高校生

6.3.2 観測所でのイベント

観測所	イベント名	実施日	参加者数
桜島火山観測所	桜島火山観測施設探検ツアー	7 月 20 日	73
宮崎観測所	見て聞いて楽しく学ぼう！	8 月 24 日，25 日	52
阿武山観測所	阿武山観測所「特別公開」 地震・防災研究の最前線	10 月 13 日，14 日	411
徳島地すべり観測所	徳島地すべり観測所 四国を襲った 大地震を学ぶジオツアー	11 月 9 日	18

6.4 その他の公開

6.4.1 防災研究所（宇治キャンパス，宇治川オープンラボラトリー，桜島火山観測所，宮崎観測所，穂高砂防観測所，白浜海象観測所）への国内機関の来訪者数

※国内の学校や一般社会からの見学など、主として研究や実験目的ではない来訪者数を広報出版企画室で集計したものである。宇治キャンパス公開，京大ウィークスは含まない。

令和 6 年度 国内機関の 来訪者数	宇治 キャン パス	宇治川 オープン ラボラトリー	桜島 火山 観測所	宮崎 観測所	穂高 砂防 観測所	白浜 海象 観測所	総計
国内の小学校、 中学校		4 件	2 件	1 件			7 件
		148 人	10 人	38 人			196 人
国内の高等学校・ 高等専門学校	3 件	7 件	1 件		2 件		13 件
	59 人	227 人	38 人		66 人		390 人
国内の大学、 研究・教育機関	1 件	2 件	3 件				6 件
	4 人	47 人	26 人				77 人
国内の政府・行政 機関	1 件	3 件	7 件	5 件			16 件
	33 人	21 人	63 人	79 人			196 人
学内関係者	1 件		5 件				6 件
	2 人		106 人				108 人
その他、国内の 一般団体等	5 件	1 件		2 件		1 件	9 件
	125 人	28 人		103 人		31 人	287 人
合計	11 件	17 件	18 件	8 件	2 件	1 件	57 件
	223 人	471 人	243 人	220 人	66 人	31 人	1254 人

（上段は件数，下段は人数を表す）

6.4.2 阿武山観測所サイエンスミュージアム計画の活動状況

項目	令和 6 年度
訪問者数	3,543 人
見学会（一般・団体）	104 回
イベント（講座など）	13 回
阿武山サポーターの所外活動	17 回

※訪問者数は京大ウィークス参加者数 411 名を含む

6.4.3 施設、設備、資料及びデータ等の利用状況等

○施設、設備の利用状況等

	研究施設・設備名	性能	施設・設備の概要及び目的
	遠心力载荷装置		都市や社会基盤を形成する地盤・構造物系の空間・時間スケールを 50～200 分の 1 に縮小した模型実験を行う際に、重力効果の再現のため、重力の 50～200 倍の遠心力を作用させ、その変形や破壊挙動を調べる装置である。 (平成 21 年度末新設、平成 22 年度より稼働開始)
1	稼働状況		令和 6 年度
	使用者の所属機関		年間使用人数
			共同利用者数
	学内 (法人内)	144	144
	国立大学	42	42
	公立大学	0	0
	私立大学	1	1
	大学共同利用機関法人	0	0
	独立行政法人等公的研究機関	0	0
	民間機関	30	30
	外国機関	0	0
	その他	0	0
	学外 計	73	73
	計	217	217
			令和 6 年度
	稼働率(b/a)		92.4%
	年間稼働可能時間(a)		1,800
	年間稼働時間(b)=(c)+(d)+(e)		1,664
	共同利用に供した時間(c)		1,664
	共同利用以外の研究に供した時間(d)		0
	(c)、(d)以外の利用に供した時間(e)		0

	研究施設・設備名	性能	施設・設備の概要及び目的
2	白浜海象観測所・田辺中島高潮観測塔		海洋観測を研究目的とする数少ない現地観測施設。和歌山県田辺湾湾口部の観測塔，観測船，および観測所建物から構成される。観測塔では気象，海象に関する基礎データが 24 時間 365 日連続観測されている。また，学内外の研究者と大気海洋相互作用，台風接近時の荒天時のデータ観測等の共同研究を継続的に実施している（令和 4 年度，科研費 2 課題）。観測データは Web での公開のほか，研究機関，地方自治体等からの要望に応じて提供している（令和 4 年度の提供件数：5 件）
	稼動状況	令和 6 年度	
	使用者の所属機関	年間使用人数	
		共同利用者数	
	学内（法人内）	93	38
	国立大学	1	1
	公立大学	0	0
	私立大学	0	0
	大学共同利用機関法人	0	0
	独立行政法人等公的研究機関	2	2
	民間機関	56	15
	外国機関	21	0
	その他	12	0
	学外 計	92	18
	計	185	56
		令和 6 年度	
	稼働率(b/a)	100.0%	
	年間稼動可能時間(a)	8,760	
	年間稼動時間(b)=(c)+(d)+(e)	8,760	
	共同利用に供した時間(c)	8,760	
	共同利用以外の研究に供した時間(d)	0	
	(c)、(d)以外の利用に供した時間(e)	0	

	研究施設・設備名	性能	施設・設備の概要及び目的
	境界層風洞実験装置		単回路吹出型の低風速境界層風洞測で、定部は幅 2.5m、高さ 2m(可変)、長さ 21m あり、風速は 0.2～25m/s まで変更可能である。流入部の乱れ強さ 0.4%以下で、天井高を変えることにより測定部の静圧勾配を調節することができる。また、風洞実験装置が設置された建物の内側は吸音壁となっており、実験時の騒音を低く抑えることができる。
	稼動状況	令和 6 年度	
	使用者の所属機関	年間使用人数	
		共同利用者数	
	学内（法人内）	436	6
	国立大学	13	2
	公立大学	0	0
	私立大学	1	0
3	大学共同利用機関法人	0	0
	独立行政法人等公的研究機関	8	0
	民間機関	86	51
	外国機関	25	0
	その他	11	0
	学外 計	144	53
	計	580	59
		令和 6 年度	
	稼働率(b/a)	58.2%	
	年間稼動可能時間(a)	1,512	
	年間稼動時間(b)=(c)+(d)+(e)	880	
	共同利用に供した時間(c)	64	
	共同利用以外の研究に供した時間(d)	816	
	(c)、(d)以外の利用に供した時間(e)	0	

	研究施設・設備名	性能	施設・設備の概要及び目的
	桜島火山観測所		わが国で最も活動的な火山である桜島に火山噴火予知研究を目的として設置された施設。桜島や薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島などに設置された衛星観測点からの火山性地震、地盤変動などのデータを集約する霧島火山帯に属する火山群の中核的拠点である。
4	稼動状況		令和6年度
	使用者の所属機関		年間使用人数
			共同利用者数
	学内（法人内）	78	45
	国立大学	34	28
	公立大学	0	0
	私立大学	2	2
	大学共同利用機関法人	0	0
	独立行政法人等公的研究機関	38	37
	民間機関	74	7
	外国機関	38	38
	その他	161	0
	学外 計	347	112
	計	425	157
			令和6年度
	稼働率(b/a)		100.0%
	年間稼動可能時間(a)		8,760
	年間稼動時間(b)=(c)+(d)+(e)		8,760
	共同利用に供した時間(c)		8,760
	共同利用以外の研究に供した時間(d)		
	(c)、(d)以外の利用に供した時間(e)		

	研究施設・設備名	性能	施設・設備の概要及び目的
5	地震時地すべり再現試験機	○	地震時地すべり再現試験機は鉄のせん断箱を有する地震時地すべり再現試験機（2 台）と可視型地震時地すべり再現試験機の合計 3 台からなる。最高せん断速度 3m/s、最大垂直応力 4MPa、載荷波形最大周波数 5Hz の世界最高性能のリングせん断型試験機であり、地震時、豪雨時、クリープ等、あらゆる地すべりのせん断断面の状態を再現することが可能な試験機である。国内外からの共同研究等、使用依頼は多い。
	稼動状況	令和 6 年度	
	使用者の所属機関	年間使用人数	
		共同利用者数	
	学内（法人内）	176	14
	国立大学	19	19
	公立大学	12	12
	私立大学	0	0
	大学共同利用機関法人	0	0
	独立行政法人等公的研究機関	10	1
	民間機関	360	0
	外国機関	35	35
	その他	138	138
	学外 計	574	205
	計	750	219
		令和 6 年度	
	稼働率(b/a)	81.6%	
	年間稼動可能時間(a)	13,840	
	年間稼動時間(b)=(c)+(d)+(e)	11,296	
	共同利用に供した時間(c)	3,000	
	共同利用以外の研究に供した時間(d)	6,840	
	(c)、(d)以外の利用に供した時間(e)	1,456	

	研究施設・設備名	性能	施設・設備の概要及び目的
	分散並列型強震応答実験装置		構造物等の地震応答性状とともに被害原因を究明し信頼性の高い耐震設計法、耐震補強法、さらに地震応答制御法を開発することをめざして、強震動を受けた構造物の地震応答ならびに損傷過程などの実現象を忠実に再現することを目的に、3次元的地震動を入力でき、かつ、実構造物や実地盤に近い模型の強震応答を再現し得る実験装置として設置し利用している。平成24年度より「長周期振動実験システム」と連携しての利用が可能となり、長周期かつ大振幅の入力に対する構造物の耐震安全性を確保するための実験が可能となった。
6	稼働状況	令和6年度	
	使用者の所属機関	年間使用人数	
		件数	
		共同利用者数	
	学内（法人内）	5	0
	国立大学	0	0
	公立大学	0	0
	私立大学	0	0
	大学共同利用機関法人	0	0
	独立行政法人等公的研究機関	0	0
	民間機関	7	0
	外国機関	0	0
	その他	0	0
	学外 計	7	0
	計	12	0
		令和6年度	
	稼働率(b/a)	45.7%	
	年間稼働可能時間(a)	1,312	
	年間稼働時間(b)=(c)+(d)+(e)	600	
	共同利用に供した時間(c)	0	
	共同利用以外の研究に供した時間(d)	304	
	(c)、(d)以外の利用に供した時間(e)	296	

	研究施設・設備名	性能	施設・設備の概要及び目的
7	広帯域電場磁場観測装置		MT 法（地磁気地電位法）を用いて地下深部までの電気比抵抗構造推定するために使用する。電場変化を 2 成分と地磁気変化 3 成分の計 5 成分を観測することができ、観測装置は GPS 信号に同期し、多点同時観測が可能。観測可能な周波数帯域は 400Hz-50000 秒（広帯域）である。また、10000Hz-10 秒（可聴域）での観測（AMT 観測）も可能。具体的な装置の構成は以下の通りである。○フェニックス・ジオフィジックス社製の広帯域 MT（400Hz-50000 秒）観測装置が 3 式。これらは AMT（10000Hz-10 秒）観測も可能。磁場コイルセンサーは、広帯域 MT 用 5 式（15 本）・AMT 用 5 式（6 本）。○上記機器と同サンプリング間隔で収録可能な NT システム社製の電磁場 5 成分・電場 2 成分ロガーがそれぞれ 3 式（計 6 式）ある。電磁場 5 成分ロガーのセンサーには、フェニックス・ジオフィジックス社製のインダクションコイルを用いる。なお、これらロガーは、メトロニクス社製の MT 機器のサンプリングにも対応可。○フラックスゲート磁力計を用いるテラテクニカ社製長周期 MT（128Hz-DC）観測装置 2 式。○簡易フラックスゲート磁力計、バーティントン社製の簡易計用センサー 2 式とテラテクニカ社製の空中磁気探査用小型システム 3 式についても貸し出し可能。
		稼動状況	令和 6 年度
		使用者の所属機関	年間使用人数
			共同利用者数
		学内（法人内）	11 11
		国立大学	2 2
		公立大学	0 0
		私立大学	0 0
		大学共同利用機関法人	0 0
		独立行政法人等公的研究機関	0 0
		民間機関	1 1
		外国機関	0 0
		その他	0 0
		学外 計	3 3
		計	14 14
			令和 6 年度
		稼働率(b/a)	100.0%
		年間稼動可能時間(a)	6,600

年間稼働時間(b)=(c)+(d)+(e)	6,600
共同利用に供した時間(c)	6,600
共同利用以外の研究に供した時間(d)	0
(c)、(d)以外の利用に供した時間(e)	0

	研究施設・設備名	性能	施設・設備の概要及び目的
	地震連続観測装置		地震災害研究センターの各観測所および各観測点から伝送されてきた地震観測データを処理して、地震波形連続ファイルや、地震検測ファイル、震源ファイルを作成し、地震予知研究の基礎資料として全国の研究者の利用に供している。気象庁、防災科学技術研究所、他大学等とリアルタイムでデータ交換・流通を行い、基盤的観測網の一部として気象庁がデータを利用するほか、地震学の各分野での研究に利用されている。
	稼動状況	令和6年度	
	使用者の所属機関	年間使用人数	
		共同利用者数	
	学内（法人内）	50	5
	国立大学	200	20
	公立大学	20	2
	私立大学	10	1
8	大学共同利用機関法人	0	0
	独立行政法人等公的研究機関	25	3
	民間機関	5	0
	外国機関	30	3
	その他	0	0
	学外 計	290	29
	計	340	34
		令和6年度	
	稼働率(b/a)	100.0%	
	年間稼動可能時間(a)	8,784	
	年間稼動時間(b)=(c)+(d)+(e)	8,784	
	共同利用に供した時間(c)	8,784	
	共同利用以外の研究に供した時間(d)	0	
	(c)、(d)以外の利用に供した時間(e)	0	

	研究施設・設備名	性能	施設・設備の概要及び目的
9	宇治川オープンラボラトリー	△	宇治川オープンラボラトリーは、水理学・土砂水理学関連の実験施設としては世界最大規模を誇り、実験水路・施設の数のみならず、その独自性においても世界有数のものが集積している。そこから数多くの世界最高水準の実験研究成果が生み出されている。また、実験施設を利用した防災教育にも活用されており、研究・教育拠点としても大いに機能している。 特に、平成 25 年より稼働している“津波再現水槽”は、3 つの津波造波機構を有する世界でもまれな構成となっており、現実の津波波形を、精度よく再現できる。また、長さ 40m、幅 4m と断面水路としても大きいため、大縮尺での実験が可能である。
	稼働状況	令和 6 年度	
	使用者の所属機関	年間使用人数	
		共同利用者数	
	学内（法人内）	340	295
	国立大学	162	11
	公立大学	49	0
	私立大学	50	0
	大学共同利用機関法人	0	0
	独立行政法人等公的研究機関	14	0
	民間機関	1,793	1,609
	外国機関	50	0
	その他	419	0
	学外 計	2,537	1,620
	計	2,877	1,915
		令和 6 年度	
	稼働率(b/a)	100.0%	
	年間稼働可能時間(a)	1,928	
	年間稼働時間(b)=(c)+(d)+(e)	1,928	
	共同利用に供した時間(c)	1,122	
	共同利用以外の研究に供した時間(d)	748	
	(c)、(d)以外の利用に供した時間(e)	58	

	研究施設・設備名	性能	施設・設備の概要及び目的
10	地震災害研究センター・阿武山観測所		阿武山観測所は 1930 年頃に設立された歴史ある地震観測所であり、現在は、「満点計画」と呼ばれる次世代型地震観測計画の基地、および、世界最先端だった歴史的地震計等を活用した地震学や防災研究のアウトリーチ活動や防災教育のための拠点（サイエンスミュージアム）として活用する計画を進めている。科学と社会、あるいは防災の専門家と一般の人とをしっかりとつなぎ直すことを目指し、一般市民のボランティアから成る「阿武山サポーター」が施設の公開だけでなく、出前型の地震授業などの観測所外の活動も行っている
	稼働状況	令和 6 年度	
	使用者の所属機関	年間使用人数	
		共同利用者数	
	学内（法人内）	71	42
	国立大学	18	10
	公立大学	0	0
	私立大学	16	16
	大学共同利用機関法人	0	0
	独立行政法人等公的研究機関	2	2
	民間機関	1	0
	外国機関	0	0
	その他	3,435	8
	学外 計	3,472	36
	計	3,543	78
		令和 6 年度	
	稼働率(b/a)	100.0%	
	年間稼働可能時間(a)	1,400	
	年間稼働時間(b)=(c)+(d)+(e)	1,400	
	共同利用に供した時間(c)	700	
	共同利用以外の研究に供した時間(d)	200	
	(c)、(d)以外の利用に供した時間(e)	500	

	研究施設・設備名	性能	施設・設備の概要及び目的
11	衝撃試験装置		エアークャノンを用いた衝撃試験を実施することができる。内径 100mm の円管に入れることができるものを射出し、試験体に衝突させる。重さ 3kg の角材で 75m/s まで加速できる。また、圧力载荷装置を備えており、900mm×1100mm までの大きさのパネルに、±2500Pa までの繰り返し圧力载荷を行うことができるガラス・外装材の耐衝撃性能試験 (ASTM E1886-04, E1996-04, ISO 16932, JIS R 3109 に準拠)が可能である。
	稼働状況	令和 6 年度	
	使用者の所属機関	年間使用人数	
		共同利用者数	
	学内 (法人内)	16	16
	国立大学	0	0
	公立大学	0	0
	私立大学	0	0
	大学共同利用機関法人	0	0
	独立行政法人等公的研究機関	0	0
	民間機関	0	0
	外国機関	0	0
	その他	0	0
	学外 計	0	0
	計	16	16
		令和 6 年度	
	稼働率(b/a)	2.7%	
	年間稼働可能時間(a)	1,200	
	年間稼働時間(b)=(c)+(d)+(e)	32	
	共同利用に供した時間(c)	32	
	共同利用以外の研究に供した時間(d)	0	
	(c)、(d)以外の利用に供した時間(e)	0	

	研究施設・設備名	性能	施設・設備の概要及び目的
12	徳島地すべり観測所		徳島地すべり観測所は常勤の教員 1 名，研究員 1 名，事務補佐 1 名が管理に当たると共に地すべりの研究拠点として利用している．学内外の研究者による研究や四国地域における地すべり研究教育の拠点となっている．毎年秋には京大ウィークスに参加し，地すべりや地質の見学会を実施している．令和 6 年度には 18 人が参加した．
	稼働状況	令和 6 年度	
	使用者の所属機関	年間使用人数	
		共同利用者数	
	学内（法人内）	15	15
	国立大学	3	1
	公立大学	3	3
	私立大学	0	0
	大学共同利用機関法人	0	0
	独立行政法人等公的研究機関	1	0
	民間機関	0	0
	外国機関	0	0
	その他	11	0
	学外 計	18	4
	計	33	19
		令和 6 年度	
	稼働率(b/a)	100.5%	
	年間稼働可能時間(a)	2,000	
	年間稼働時間(b)=(c)+(d)+(e)	2,010	
	共同利用に供した時間(c)	30	
	共同利用以外の研究に供した時間(d)	1,970	
	(c)、(d)以外の利用に供した時間(e)	10	

※ ○又は△を記入した施設・設備について、設置年月日、設置時の導入経費及び年間の運転経費を以下に記載

	研究施設・設備名	A	設置年月日		備考
		B	設置時の導入経費(千円)		
		C	運転経費(千円／年)		
1	地震時地すべり再現試験機	A	1995 年 3 月 31 日 1996 年 3 月 28 日 2002 年 3 月 29 日		3 台を順次設置
		B	117,111		科学研究費補助金、阪神・淡路大震災後の補正予算、科学技術振興調整費
			国費	117,111	
			その他	0	
		C	令和6年度	6,500	当該施設の光熱水料、保守費、機能増加費等の前年度実績額
	研究施設・設備名	A	設置年月日		備考
		B	設置時の導入経費(千円)		
		C	運転経費(千円／年)		
2	宇治川オープンラボラトリー	A	1953 年 8 月 1 日		
		B	4,293,506		施設新営費
			国費	4,293,506	
			その他	0	
		C	令和6年度	24,293	当該施設の光熱水料、保守費等の前年度実績額

施設・設備の概要

京都大学防災研究所（自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点）

地震時地すべり再現試験機

施設・設備の概要

地震時地すべり再現試験機は鉄のせん断箱を有する地震時地すべり再現試験機（2台）と可視型地震時地すべり再現試験機の合計3台からなる。最高せん断速度3m/s、最大垂直応力4MPa、載荷波形最大周波数5Hzの世界最高性能のリングせん断型試験機である。

主な用途

地震時、豪雨時、クリープ等、あらゆる地すべりのせん断面の状態を再現し、地すべりの発生・運動を予測することが可能な試験機である。また、断層ガウジの形成過程や内部構造に関する研究も実施できる。

利用状況等

設置年月日：平成7年3月31日；平成8年3月28日；
平成14年3月29日（3台を順次設置）
導入経費：117,111（千円）（うち国費：117,111（千円））
運転経費：6,500（千円）／年（光熱水料、整備・運転に係る人件費、備品費含む）

<利用の状況（令和6年度）：3

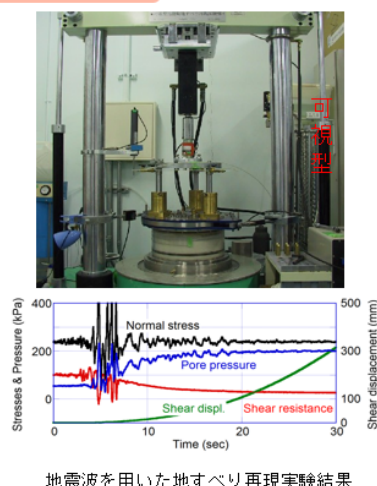
台での合計>

- ・実稼働実績：合計 365 日（11,296 時間）、稼働率 81.67%
- ・学内研究：6,840 時間（10課題）、年間使用人数 176 名
- ・共同研究：4,456 時間（8課題）、年間使用人数 556 名
- ・主な利用機関：京大理学研究所、東大生産研、USGSなど
- ・その他特徴的な利用方法等：国内外からの依頼研究も多い

<今後の計画>

日本国内の数多くの大学や研究機関と連携して、共同研究を推進する。また、海外の研究者・技術者、国内研究機関、行政機関との共同実験と成果の公開を通じ、社会貢献も目指す。

イメージ図



施設・設備の概要

京都大学防災研究所（自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点）

施設・設備名

施設・設備の概要

宇治川オープンラボラトリーは、水理学・土砂水理学関連の実験施設としては世界最大規模を誇り、実験水路・施設の数のみならず、実際に近い津波を再現し得る装置や実スケールの階段歩行水路等を有するなど、施設・設備の独自性においても世界有数のものが集積している。

主な用途

数多くの世界最高水準の実験研究成果が生み出されている。また、実験施設を利用した防災教育にも活用されており、研究・教育拠点としても大いに機能している。

利用状況等

設置年月：昭和28年8月1日
導入経費：4,293,506（千円）（うち国費：4,293,506（千円））
運転経費：24,923（千円）／年（光熱水料、整備・運転に係る人件費、備品費含む）

<利用の状況（令和6年度）>

- ・実稼働実績：合計241日（1928時間）、稼働率100 %
- ・学内研究：748時間（16課題）、年間使用人数 295名
- ・学外研究：1,122時間（9課題）、年間使用人数 1,609名
- ・主な利用機関：京都大学大学院農学研究科、(株)ニュージエック
- ・その他特徴的な利用方法等：学部授業の一環として施設の一部を利用している他、高校生向けの体験学習や、消防・警察の救助訓練などに利用している。

<今後の計画>

・宇治サブキャンパスとしてのミッションを果たすべく、大学の研究成果の発信や研修・体験学習の実施など、研究・教育拠点としての機能を強化する。

イメージ図



資料・データの概要

京都大学防災研究所（自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点）

桜島火山ボーリングコア

資料・データの概要

桜島では、多数のボーリングによる掘削が行われてきた。京都大学が実施した掘削ではすべての深度において可能な限りサンプリングを行っており、総延長2400mのボーリングコアが蓄積されている。大半は桜島を形成するときに噴出した溶岩であるが、桜島形成以前の火砕流の堆積物なども含まれる。ボーリングコアサンプルの提供も可能である。また、ボーリングに付随した柱状図、地温分布などのデータの提供も可能である。

主な用途

桜島火山の形成期やそれ以前の噴火活動の研究に用いることができる。

利用・提供状況等

提供(公開)開始年月：平成10年4月11日

保有数(蓄積量)：令和5年度 11、令和6年度 11

<利用件数、利用・提供区分>

令和4年度：0(うち共同利用・共同研究者利用件数 0)

令和5年度：1(うち共同利用・共同研究者利用件数 0)

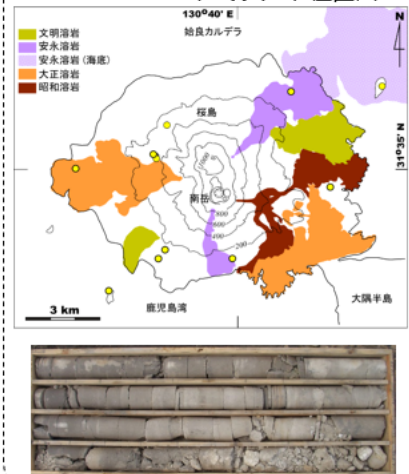
令和6年度：0(うち共同利用・共同研究者利用件数 0)

<今後の計画>

コア箱の傷みが進んでいるので、随時、改修を進めている。また、提供を受けた岩石サンプルもデータベースに追加するなど整備を進める。

イメージ図

ボーリングコア位置図



資料・データの概要

京都大学防災研究所（自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点）

桜島の爆発映像等

資料・データの概要

桜島火山などの爆発的噴火が発生した時の動画や静止画である。特に、桜島の爆発活動が活発であった1980～1990年代の噴火については、ビデオ画像が他にはほとんど存在しないので、貴重なデータベースとなっている。また、桜島以外にも、九州の活火山の噴火やインドネシアの活火山の噴火や災害に関する画像も所有している。代表的なものはHPからダウンロードできるが、それ以外のデータの提供については直接問い合わせしてほしい。

主な用途

一般向けの講義や様々な防災教育活動等の資料に活用できる。また、画像データが時刻情報も持っているため、研究者が他の観測項目と時刻の照合をすることが可能である。

利用・提供状況等

提供(公開)開始年月：平成10年4月1日

保有数(蓄積量)：令和5年度365日分、令和6年度365日分

<利用件数、利用・提供区分>

令和4年度：0(うち共同利用・共同研究者利用件数 0)、提供

令和5年度：1(うち共同利用・共同研究者利用件数 0)、提供

令和6年度：0(うち共同利用・共同研究者利用件数 0)、提供

<今後の計画>

資料の蓄積をすすめるとともに、過去の噴火のビデオテープやスライド・ネガの電子ファイル化を順次実施している。

イメージ図



○資料の利用・提供・整備状況

	資料名	価値	資料の概要
1	伊勢湾台風高潮被害写真データベース		伊勢湾台風時の高潮による被害現場の写真と現在の写真をデータベース化し、平成 29 年から京都大学研究資源アーカイブと連携することで、より詳しい情報をインターネット上で提供できるようになった。
	保有数／利用・提供状況	令和6年度	
	保有数		
	利用・提供区分	提供	
	利用件数		
	総利用件数		
	共同利用・共同研究者利用件数(内数)		
	資料名	価値	資料の概要
2	桜島火山ボーリングコア	○	桜島火山山麓 11 カ所において掘削したボーリングコアで、延べ 2、400m に及ぶ。最も深いもので 500m に及ぶ。
	保有数／利用・提供状況	令和6年度	
	保有数	11	
	利用・提供区分	提供	
	利用件数		
	総利用件数	0	
	共同利用・共同研究者利用件数(内数)	0	
	資料名	価値	資料の概要
3	桜島の爆発映像等	○	1980 年代以降の桜島南岳の爆発的噴火のビデオ映像、写真や諏訪之瀬島など鹿児島県内の火山の噴火映像、写真
	保有数／利用・提供状況	令和6年度	
	保有数	365 日分	
	利用・提供区分	提供	
	利用件数		
	総利用件数	0	
	共同利用・共同研究者利用件数(内数)	0	

	資料名		価 値	資料の概要
4	防災研究所年報			防災研究所の論文集（昭和 26 年度～）
	保有数／利用・提供状況		令和6年度	
	保有数		5,060	
	利用・提供区分		提供	
	利 用 件 数	総利用件数	180,623	
		共同利用・共同研究者利用件数(内数)	－	
	資料名		価 値	資料の概要
5	共同研究成果資料			防災研究所で実施された共同研究成果資料の一部公開
	保有数／利用・提供状況		令和6年度	
	保有数		945	
	利用・提供区分		提供	
	利 用 件 数	総利用件数	62,068	
		共同利用・共同研究者利用件数(内数)	－	

○データの作成・公開状況

	データ名	価値	蓄積情報の概要	公開方法
1	自然災害データベース		自然災害は種々の形態を持ち、それに関連する学問も非常に多岐に渡っている。他の分野の研究者にとっても有効な情報となるよう、本データベースでは、各地区の自然災害研究グループが収集・整理してきた自然災害に関する資料を統一的なフォーマットの基で統合しデータベース化している。従来システムの老朽化に伴い、令和 3 年度より新システムによる運用を開始した。	インターネットによる一般公開
	蓄積量／利用・提供状況		令和6年度	
	蓄積量		121,261	
	利用 件 数	総利用件数		996
		共同利用・共同研究者利用件数(内数)		0

	データ名	価値	蓄積情報の概要	公開方法
2	災害史料データベース		歴史史料には、過去に発生した地震やその他の災害の記録がたくさん残されているが、史料とひとこと言ってもその量は膨大であり、しかも現代語で書かれているわけではない。そこで、種々の歴史書からの災害に関する記事から記載を抽出する共に、その現代語訳を付けたものをデータベース化し公開している。従来システムの老朽化に伴い、令和3年度より新システムによる運用を開始した。	インターネットによる一般公開
	蓄積量／利用・提供状況		令和6年度	
	蓄積量		13,632	
	利用件数	総利用件数	878	
		共同利用・共同研究者利用件数(内数)	0	

	データ名	価値	蓄積情報の概要	公開方法
3	地磁気データ		蔵柱観測室（岐阜県高山市上宝）、宿毛観測室（高知県宿毛市）においてフラックスゲート磁力計を用いて収録した地磁気 3 成分データである。	利用申請に基づく、研究者へのデータの提供。令和 4 年度より過去のデータを含めて公開を開始した。
	蓄積量／利用・提供状況	令和6年度	逐次収録のため、収録日数×2 か所で記入	
	蓄積量	600		
	利用件数			
	総利用件数	4		
	共同利用・共同研究者利用件数(内数)	4		

6.4.4 サイエンスコミュニケーター（SC）の養成

◆SC 養成講座の開催実績（令和 6 年度）

- ・ 第 11 回 SC 養成講座（2024 年 6 月 21 日） 10 名認定

◆見学前の SC との打合せ・練習などの準備会開催実績（令和 6 年度）

- ・ 令和 6 年度 計 5 回開催（14 名参加）

6.4.5 文部科学省情報ひろば特別展示「人の命を救い、人を幸福にするために防災研究のパラダイムシフトに貢献する」

【概要説明】

「人の命を救い、人を幸福にするために防災研究のパラダイムシフトに貢献する」と題し、下記の要領で「文部科学省 情報ひろば」文部科学省 東館 2 階エントランス正面での企画展示を開催。

<https://www.mext.go.jp/joho-hiroba/sp/archive/2024entrance.html>

（文部科学省情報ひろば 特別展示 令和 6 年度エントランス）

【概要】

タイトル：企画展示「人の命を救い、人を幸福にするために防災研究のパラダイムシフトに貢献する」

会場：「文部科学省 情報ひろば」文部科学省 新庁舎 2 階エントランス ※入場無料

開催期間：令和 6 年 11 月 11 日（月）～ 令和 6 年 12 月 20 日（金）

休館日：土曜日、日曜日、祝日は休館

京都大学防災研究所

企画展示「人の命を救い、人を幸福にするために防災研究のパラダイムシフトに貢献する」

京都大学防災研究所は、地球規模あるいは地域特性の強い災害と防災に関わる多種多彩な課題に対して、災害学理の追求を目指した基礎的研究を展開するとともに、現実社会における問題解決を指向した実践的な研究を実施し、安全・安心な社会の構築、世界の安定や持続可能な発展に貢献する次世代の人材育成を目指した活動に取り組んでいます。

本企画展示では当研究所が日々取り組んでいる様々な研究分野について、そして、新たに提唱する斜面「未災」学、気候変動適応研究、国際協働の取り組みについてご紹介します。

また、令和 6 年能登半島地震については当研究所に在籍しているさまざまな分野の専門家が調査・研究にあたっており、その成果の一部をご紹介します。

【主な展示物】

○映像

- ・ 令和 6 年能登半島地震の調査・研究
- ・ 京都大学防災研究所の紹介

○パネル

- ・ 令和 6 年能登半島地震の調査・研究
- ・ 京都大学防災研究所「わたしたちはこんな研究をしています」（パネル展示・タッチパネル）

【展示物の詳細】

○パネル「令和 6 年能登半島地震の調査・研究」



○映像「令和 6 年能登半島地震の調査・研究」の内容

(地震像の解明)

- ・能登半島地震で地面はどのように動いたのか？ — 地殻変動から読み解く地震活動 —
- ・能登半島地震が起こるメカニズムの仮説について — 地下で何が起こっていたのか？ —
- ・令和 6 年能登半島地震 (M7.6) 強震動と震源過程
- ・能登半島地震津波波源の分析 — 津波波源モデルの違い —

(ハザードの調査・分析)

- ・能登半島地震による沿岸域の被害調査
- ・能登半島地震による津波被害 — 新潟県上越市の河川を逆流する津波 —
- ・能登半島地震における地すべり被害調査 — 地震によって崩れる地形 —
- ・泥流の数値シミュレーション
- ・能登半島地震液状化調査

(地震および地震後の能登半島豪雨、被害の調査・分析)

- ・能登半島地震による建物被害 — 震度の大きさだけで被害は決まらない —
- ・能登半島地震医療施設の被害調査

- ・ 能登半島地震によるインフラ施設被害調査
- ・ 2024 年能登半島地震に伴う地震火災・津波火災の調査と分析
- ・ 能登半島地震により発生した斜面変動と連鎖複合災害
- ・ 保険データを活用したリアルタイム洪水被害推定手法に関する共同研究 ―令和 6 年能登豪雨災害を対象にした速報―

(避難・災害対応と復旧・復興プロセスの調査)

- ・ 令和 6 年能登半島地震における行政・支援団体の災害対応
- ・ 能登半島地震後のなりわい再建（生活の糧の立て直し）に向けた取り組みの実態と展望―事業所ヒアリング調査の結果から―

★（参考リンク）京都大学防災研究所災害調査報告（令和 6 年能登半島地震ほか）

https://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/disaster_report/

○パネル「京都大学防災研究所の紹介」



京都大学防災研究所

Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

私たちはこんな研究をしています

1. 防災研究のデパート

当研究所では、さまざまな自然災害の多様な局面について、研究しています。



2. パラダイムシフトをリード

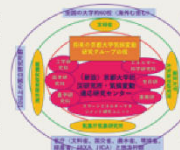
斜面未災学研究センター

近年複合化・激甚化している斜面災害を対象とし、災害予測や防災リテラシー向上につながる日本発の新概念「未災学」の研究を推進するために、斜面情報の評価や未災情報発信による社会実装を図る手法を開発しています。



気候変動適応研究センター

地球全体ではすでに1.2度の気温上昇がおき、気候変動がもたらすリスクが急激に増えています。そこで、従来、当研究所で実施してきた気候変動に関する文科省委託プログラムをふまえて、「適応策の創出」と「その定量的評価研究」を飛躍的に進めるために、当センターに研究者を戦略的に集結させて研究の多角化を図り、研究成果を国・自治体へ橋渡しするノウハウを確立することをねらいとしています。



3. 国際協働をリード

GADRI(世界防災研究所連合)とは、世界各国の災害研究・防災研究を橋接する研究機関と情報、知識、経験、さらには、理念を共有し、学術面から災害リスク軽減と災害レジリエンスの向上に貢献することを目的とした研究ネットワークです。当研究所は、GADRIの事務局として、災害研究・防災研究を新たなステージに導くサポートを行っています。



GADRIの地域別メンバー構成 (May, 2023)



第6回世界防災研究所サミット

タッチモニター
斜面台

「斜面未災学」とは

気候変動がもたらす豪雨や多発する地震、これらにより引き起こされる地すべり災害（斜面災害）への関心が高まっています。「斜面未災学」とは、斜面災害を軽減し、人命・財産や文化・自然遺産を守ることを使命として研究を行う学問分野です。

★（参考リンク）京都大学防災研究所斜面未災学研究センター <https://landslide.dpri.kyoto-u.ac.jp/>

気候変動適応研究センターとは

これまで、防災研究所は気候変動に関する研究の中核機関として大きな成果を挙げ、我が国の気候変動の極端気象に関する研究および科学政策を先導してきました。

すでに温暖化の影響が顕在化し、気候変動がもたらす地球規模のリスクが急激に増し、2度上昇が予測される2050年に向けた影響予測と適応計画の立案は緊急の状況となっています。特に風水害に加えて、複合災害、交通等のインフラ、農業といった更に広い分野への対応が必要であり、研究の多角化が喫緊の課題となっています。

本センターは、2024年7月1日に設立され、気候変動に伴い将来激甚化が懸念される気象災害・水災害の予測や社会の適応についての研究を行うとともに、同研究についての学内外の研究者による共同研究や成果の社会還元を推進します。

★（参考リンク）京都大学防災研究所気候変動適応研究センター <http://www.castr.dpri.kyoto-u.ac.jp/>

世界防災研究所連合（GADRI）事務局として

当研究所は、GADRI（世界防災研究所連合）の事務局として、災害研究・防災研究を新たなステージに導くサポートを行っています。

GADRIとは、世界各国の災害研究・防災研究を標榜する研究機関と情報、知識、経験、さらには、理念を共有し、学術面から災害リスク軽減と災害レジリエンスの向上に貢献することを目的とした研究ネットワークです。この目的を達成するために、以下の五つの目標を掲げて活動を展開しています。

- ①学術研究の地球規模ネットワークを形成すること
- ②災害研究のロードマップ、研究計画、研究組織の組成に資すること
- ③災害研究を進める研究機関の能力向上を目指し、研究者や学生の交流を推進すること
- ④地球規模で学術研究のためのデータや情報の共有化を進めること
- ⑤意思決定に影響を及ぼせるように、統一した声明を発信するための調整を行うこと

★（参考リンク）世界防災研究所連合（GADRI） <https://gadri.net/>

★私たちはこんな研究をしています（タッチパネル）

<https://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/SpecialHP/>

6.5 社会貢献活動

6.5.1 講演会・研修会・セミナー・総合学習・教員研修担当一覧（小・中・高校など） 令和 6 年度

	氏名	タイトル	主催者・発行元	開催日
1	五十嵐 晃	2024 Asia-Pacific-Euro Summer School on Smart Structures Technology (APESS2024)	Asian-Pacific Network of Centers for Research in Smart Structures Technology (ANCRiSST)	2024/07/01 ~ 2024/07/19
2	竹林 洋史	河川災害に関するシンポジウム 2024	土木学会水工学委員会・自然災害研究協議会	2024/04/10
3	竹見 哲也	大阪市環境保全目標等の達成に向けた大気環境改善対策等調査に係る検討会		2024/07/05 ~ 2025/03/07
4	竹見 哲也	研究開発と Society5.0 との橋渡しプログラム(BRIDGE)の施策「局地的・突発的な荒天対策のためのスタートアップとの連携：AI を用いたリアルタイム防災フィールド構築」プログラムディレクター	気象庁気象研究所	2024/05/09 ~ 2025/03/31
5	竹見 哲也	経済安全保障重要技術育成プログラム プログラム・オフィサー	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合研究開発研究	2023/01/18 ~ 2025/12/31
6	土井 一生	京都大学宇治キャンパス公開公開ラボ		2024/10/19 ~ 2024/10/20
7	土井 一生	特別授業「地震災害・地震防災」		2024/10/30 ~ 2024/11/13
8	土井 一生	特別授業「地震災害・地震防災」		2025/02/10 ~ 2025/02/18
9	土井 一生	自治会防災講演会「地域が影響を受けうる地震」		2024/11/24
10	西野 智研	地震火災・津波火災への備えを考えるー2024 年能登半島地震に伴う火災被害を踏まえてー	NPO 法人産業防災研究所	2024/04/20
11	西野 智研	火災安全改修を考えるとときに意識しておきたい心構え	京都市	2024/09/05
12	西村 卓也	我が国の地震研究の最前線 ～能登半島地震のメカニズムと地震長期予測～	日本河川協会	2024/06/04
13	西村 卓也	地殻変動観測からみた令和 6 年能登半島地震	日本測量協会	2024/06/21
14	畑山 満則	「防災分野における情報技術・データ活用の最新動向とドコモへの期待」における講演	株式会社 NTT ドコモ	2024/04/17 ~ 2024/04/18

15	畑山 満則	効果的な災害対応のための防災 DX ー令和 6 年能登半島地震の事例を 通じてー	防犯防災総合展実行委員 会・一般財団法人大阪国 際経済振興センター・テ レビ大阪	2024/05/30
16	畑山 満則	先端情報技術を用いた災害対応の 高度化ー令和 6 年能登半島地震の 事例を踏まえてー		2024/05/31
17	畑山 満則	令和 6 年能登半島地震から見える 南海トラフ巨大地震への備え	NPO 法人大阪府防犯設備 協会	2024/06/10
18	廣井 慧	南海トラフ地震部会まちづくり分 科会	ひょうご震災記念 21 世紀 研究機構	2022/07/01 ～ 2024/03/31
19	堀 智晴	一般財団法人防災研究協会	-	2021/04/01 ～ 2024/03/31
20	松澤 真	地形・地質から考える土砂災害と 知る防災ー辰野町の研究例よりー	飯田市美術博物館	2024/05/11
21	松澤 真	長野県辰野町における住民参加型 の防災マップ、重力変形斜面の素 因となる断層破碎帯-美濃帯の例-	公益社団法人日本技術士 会 近畿本部応用理学部会	2024/08/08
22	松島 格也	京都市開発審査会	京都市	2018/07/01 ～ 2024/06/30
23	松島 格也	由良川流域懇談会	国土交通省近畿地方整備 局	2008/12/01 ～ 2024/12/15
24	松島 格也	大阪市建設局下水道施設包括業務 委託の PDCA 実施にかかる有識者 会議 会長	大阪市	2023/02/01 ～ 2024/12/27
25	松島 格也	大阪市都市計画審議会	大阪市	2022/08/20 ～ 2026/08/19
26	山下 裕亮	地震・津波から命を守るための基 礎知識	宮崎大学耳鼻咽喉・頭頸 部外科学教室	2024/04/06
27	山下 裕亮	宮崎県民なら知っておきたい 地震 の基礎知識	宮崎県小中学校事務研究 会	2024/05/24
28	山下 裕亮	やさしい地震・津波の基礎知識	門川町立門川中学校	2024/06/12
29	山下 裕亮	南海トラフ地震・日向灘地震に備 えるための基礎知識	宮崎市介護支援専門員連 絡協議会	2024/06/13
30	山下 裕亮	南海トラフ地震に備えるための基 礎知識	宮崎市郡司分自治会	2024/06/16
31	山下 裕亮	自主防災組織研修会（施設見学受 け入れ）	小松台地域まちづくり委 員会	2024/06/18
32	山下 裕亮	南海トラフ地震に備えるための基 礎知識	三和総合建設安全協力会	2024/06/21
33	山下 裕亮	視察研修（施設見学受け入れ）	都農町役場退職者会	2024/06/21
34	山下 裕亮	南海トラフ地震を理解するための 基礎知識	大淀地域まちづくり推進 委員会	2024/06/22
35	山下 裕亮	地震報道のための基礎知識	宮崎日日新聞社	2024/06/28
36	山下 裕亮	南海トラフ地震に備えるための基 礎知識	一般社団法人宮崎県浄化 槽協会	2024/07/02

37	山下 裕亮	南海トラフ地震を理解するための基礎知識	新富町越馬場地区	2024/07/05
38	山下 裕亮	南海トラフ地震を理解するための基礎知識	MANGO 株式会社	2024/09/06
39	山下 裕亮	地震から命を守るための正しい基礎知識	宮崎県立日南高等学校	2024/09/26
40	山下 裕亮	日向灘地震から 2 ヶ月 ～これまでに分かったことと、今後のシナリオ～	宮崎公立大学地域センター	2024/10/09
41	山下 裕亮	8 月 8 日 M7.1 のメカニズムと今後考えられるシナリオ	NPO 法人みやざき技術士の会	2024/10/17
42	山下 裕亮	地震から命を守るための正しい基礎知識 ～意外と知らない地震のイロハ～	GMO インターネットグループ株式会社	2024/10/18

6.5.2 学術指導

令和 6 年度

	依頼者	指導担当者	指導題目	指導料 総額
1	株式会社大林組	渦岡 良介	降雨と地震の重畳作用を考慮した盛土の応答解析手法の研究	444,444
2	株式会社東京建設コンサルタント	佐山 敬洋	RRI モデルを用いた洪水予測システム、流出モデルの改良	500,000
3	クボタ環境エンジニアリング株式会社	佐山 敬洋	排水機場操作支援のための水位予測シミュレーター指導業務委託	-
4	飛島建設株式会社	池田 芳樹	非線形領域における建物特性変化の評価手法に関する技術指導	550,000

※その他、全項目非公開 8 件

6.5.3 マスメディアを通じての活動

令和 6 年度

	氏名	記事・番組名	掲載メディア	掲載・出演日
1	伊藤 喜宏	南海トラフ、見えた課題 専門家の見方	日本経済新聞	2024/08/16
2	伊藤 喜宏	専門家「日向灘、南海トラフとの関連考えにくい」 神奈川で震度 5 弱	毎日新聞	2024/08
3	伊藤 喜宏	ミヤネ屋「最新・宮崎「震度6弱」受け・初の“臨時情報”・南海トラフ「巨大地震注意」影響は」	ミヤネ屋	2024/08
4	伊藤 喜宏	次なる地震に備える スロースリップが地震を誘発	AERA	2024/05
5	倉田 真宏	④橋梁部門でCIM活用広がる	鋼構造ジャーナル	2024/04/08
6	竹林 洋史	地震・豪雨の発生メカニズムは？	NHK 石川	2025/03/26
7	竹林 洋史	豪雨時、橋に流木が詰まり氾濫 能登、少なめの雨量で土石流 住宅が流失	朝日新聞	2025/01/10
8	竹林 洋史	能登半島の大雨災害、流木・土砂が橋にひっかかり浸水被害拡大…「中小河川近くではより早い避難必要」	読売新聞	2024/12/06
9	竹林 洋史	橋に流木「氾濫の大きなトリガー」 能登豪雨、研究者らが分析	朝日新聞	2024/11/30
10	竹林 洋史	輪島・中屋トンネル付近の土砂災害、能登半島地震が影響か…今後の雨でさらに崩れる恐れ	読売新聞	2024/11/06
11	竹林 洋史	流れが激変 塚田川で何が？ 新耐震基準の住宅も倒壊おそれ	NHK	2024/10/21
12	竹林 洋史	時論公論	NHK	2024/10/16
13	竹林 洋史	能登豪雨、少なめの雨量で土石流発生 京大研究者、速度や深さも計算	朝日新聞	2024/10/07
14	竹林 洋史	地震時の土砂で被害拡大か 能登豪雨、京大研究者が調査	朝日新聞	2024/10/03
15	竹林 洋史	サンデーモーニング	TBS テレビ	2024/09/29
16	竹林 洋史	発生後わずか 25 秒で住宅へ	西日本新聞	2024/08/16
17	竹林 洋史	松山土砂崩れ 25 秒で住宅へ	産経新聞	2024/08/13
18	竹林 洋史	松山城斜面で発生した泥流の流動特性	中国新聞	2024/08/13
19	竹林 洋史	松山城斜面の泥流は 25 秒で宅地急襲、京都大学・竹林氏が解析	日経クロステック	2024/08/01
20	竹林 洋史	松山城斜面で発生した泥流の流動特性	読売新聞	2024/07/17
21	竹林 洋史	土石流の土砂災害警戒区域について	朝日新聞	2024/04/24
22	峠 嘉哉	乾燥に強風…春に多発 道内でも山林火災の危険	どさんこワイド	2025/03/26
23	峠 嘉哉	大船渡市の山林火災から1か月 山林火災の専門家に今後の山林再生の道のりについて聞く	ニュースエコー	2025/03/26
24	峠 嘉哉	相次ぐ山林火災の要因は“異常な乾燥”	イット！	2025/03/26
25	峠 嘉哉	火災続く西日本 雨はいつ	報道ステーション	2025/03/26
26	峠 嘉哉	岩手大船渡の山林火災「消せなかった」火の勢いはどう広がったのか	朝日新聞	2025/03/26
27	峠 嘉哉	Japan's largest wildfire in decades continues to spread	International Fire & Safety Journal	2025/03/05

28	峠 嘉哉	山林火災一週間 雨で収まる？	NEWS every.	2025/03/05
29	峠 嘉哉	山林火災8日目 待望の雪と雨	THETIME	2025/03/05
30	西川 友章	緊急警告 千葉県沖、豊後水道 スロースリップ地震が怖い	講談社週刊現代	202405
31	西嶋 一欽	ニュースウオッチ 9	NHK	2024/08/27
32	西村 卓也	「元日を思い出す」能登で震度 5 弱 1 月の地震との関連性は？今後の能登地方の地震活動について専門家に聞く	ウェークアップ	2024/11/30
33	西村 卓也	東大&京大の教授に聞く「相次ぐ地震の共通点」と「警戒すべきエリア」	サタデーステーション	2024/04/20
34	西村 卓也	愛媛高知で震度 6 弱 南海トラフ巨大地震への影響は？ 能登半島・豊後水道、相次ぐ地震…専門家「特に今年が異常だということはない」	山陰放送	2024/04/18
35	西村 卓也	4 月 17 日愛媛県の地震(M6.6)関係	羽鳥慎一モーニングショー	2024/04/18
36	山下 裕亮	南海トラフ地震臨時情報 もし発表されていたら…	UMK テレビ宮崎	2024/04/18
37	山下 裕亮	南海トラフ地震との関係性 専門家が生解説	4 時どき！	2024/04/18
38	山下 裕亮	「臨時情報」でどう動く 南海トラフ地震想定、行政職員対応考える	AGARA	2024/05/27
39	山下 裕亮	「同程度の揺れが襲ってくる可能性はあるので、余震に注意を」豊後水道を震源とする M6.4 の地震	MRT 宮崎放送	2024/04/18
40	山下 裕亮	県内でも震度4観測 山下裕亮助教 改めて地震への備え訴える	NHK 宮崎放送局	2024/04/18
41	山下 裕亮	「ただちに南海トラフ地震を引き起こすような影響はない」巨大地震との関連を専門家に聞く	OBS 大分放送	2024/04/18
42	山下 裕亮	豊後水道で M6.4 専門家は「同程度の揺れに注意」呼びかけ	UMK テレビ宮崎	2024/04/18
43	山下 裕亮	豊後水道震源の地震、京都大助教「ただちに南海トラフ地震に影響あるとは考えにくい」	読売新聞	2024/04/18
44	山下 裕亮	日南市で震度 5 弱 宮崎県南部平野部で強い地震 被害の情報はない	MRT ニュース	2024/04/08
45	山下 裕亮	京大防災研山下裕亮助教「日頃の備えを見直してほしい」	てげびび！	2024/04/08
46	山下 裕亮	宮崎南部で震度 5 弱 津波無し	ひるおび	2024/04/08
47	山下 裕亮	日南市で震度 5 弱 今回の地震の特徴は	UMK テレビ宮崎	2024/04/08
48	山下 裕亮	日南市で震度 5 弱 専門家が解説	4 時どき！	2024/04/08
49	矢守 克也	「大雨で避難！そのときどうする？チャレンジ BOSAI アクション×天才てれびくん」	明日をまもるナビ	2024/06/09
50	矢守 克也	名言「空振りではなく素振り」	西日本新聞	2024/06/09
51	矢守 克也	豪雨そのときあなたは、どうする～早期避難が救う命～	RKK 熊本放送	2024/06/06
52	矢守 克也	雨の季節の防災対策	NHK 総合	2024/06/06
53	矢守 克也	愛媛防災シンポジウム「“孤立”“避難”いま備えること」	NHK	2024/06/02
54	矢守 克也	生活防災のススメ 福井放送ラジオ講座「いきいきライフ」	福井放送	2024/06/02

55	矢守 克也	「臨時情報」でどう動く 南海トラフ地震想定、行政職員対応考える、和歌山	紀伊日報	2024/05/27
56	矢守 克也	119 番が残した教訓 ～西日本豪雨の被災地から～	NHK ジャーナル	2024/05/27
57	矢守 克也	南海トラフ地震／「臨時情報」でどう動く／行政職員 対応考える	紀伊民報	2024/05/22
58	矢守 克也	巨大地震、集落孤立や避難長期化の備えは松山で愛媛防災シンポ	愛媛新聞	2024/05/19
59	矢守 克也	災害時の孤立対策や備え学ぶシンポジウム	NHK 松山	2024/05/19
60	矢守 克也	気象情報 見直し難航 名称組み合わせ「複雑怪奇」国の検討会	読売新聞	2024/05/19
61	矢守 克也	防災情報、種別・レベルごとに設定へ 気象庁検討会が整理案、来年度以降	産経新聞	2024/05/14
62	矢守 克也	防災気象情報をシンプルに、のほすが…「長すぎ」名称案に異論続出	朝日新聞	2024/05/14
63	矢守 克也	防災情報 新たな名称案 提示もまともらず 国の検討会	ニュース	2024/05/14
64	矢守 克也	乱立の「防災気象情報」見直し 有識者検討会が取りまとめ	共同通信	2024/05/14
65	矢守 克也	訪問先のリスク調べて	中日新聞	2024/05/06
66	矢守 克也	「最近地震多い？」は本当か 統計上は「普通」、でも体感とズレ	朝日新聞	2024/05/04
67	矢守 克也	生じなかった事例こそ注目：豪雨災害、事前に備えを	(共同通信) 東奥日報、秋田さきがけ、岩手日報、新潟日報、京都新聞、熊本日日新聞、沖縄タイムズ、静岡新聞、信濃毎日新聞、日本海新聞、高知新聞、宮崎日日新聞、南日本新聞、中国新聞、下野新聞、山陰中央新報、神戸新聞、愛媛新聞、福井新聞	2024/05
68	矢守 克也	熱中症への備え：「防災対策」と意識せねば	信濃毎日新聞	2024/04/25
69	矢守 克也	三つの「住」を徒歩圏に：日常の関わりが復興の力	北國新聞	2024/04/20
70	矢守 克也	「南海トラフ地震臨時情報」どう生かす 津波高 34m 想定が訓練で考える	静岡放送	2024/04/17
71	矢守 克也	社説：台湾地震に学ぶ 避難所運営の抜本的改善を	京都新聞	2024/04/14
72	矢守 克也	「住宅再建モデルを早く」矢守京大教授、視察で提言	北國新聞	2024/04/03